

1. 諏訪湖イベントひろばに導入する機能について

1.1. 諏訪湖イベントひろば実現化手法の方向性

諏訪湖イベントひろば（以下、「ひろば」という。）の実現化手法の方向性の検討にあたり、「諏訪湖イベントひろばの利用状況」、「上位関連計画」、「事業対象地の周辺状況」を整理した。

（一部再掲）

≪諏訪湖イベントひろばの利用状況≫

- 諏訪圏工業メッセの会場として利用されているほか、諏訪湖祭湖上花火大会の有料自由席、諏訪市農業祭や不要食器ぐるぐる市などの会場として利用されている。
- 野球やサッカーなどのスポーツ練習の場としての利用が増加している。
- 災害時の救援拠点として活用している。

≪上位関連計画≫

- 「旧東洋バルヴ諏訪工場跡地活用基本構想（H31.3）」において、活用コンセプトとして、「産業振興・技術開発・観光振興・雇用拡大の活動拠点ゾーン」が掲げられている。
- また、新たな技術開発など諏訪市の地域産業を支援する機能を付加することや、駐車場を確保するとともに、災害時等の活動拠点としての機能を持たせる等の整備方針が挙げられている。また、財政負担を最小限に抑える必要があり、民間活力を導入した整備及び運営を目指すこと、集客力のある収益事業を実施することで一定の収益性を確保する手法を導入することが挙げられている。
- 「諏訪湖創生ビジョン」において、観光客が湖畔での散策や温泉などを楽しんでいることや諏訪湖が国際的な湖沼研究の場となり、国内外から多くの研究者や見学者が訪れていることが、目指す姿として挙げられている。
- 「まち・ひと・しごと創生総合戦略（H27.10）」において、インバウンド誘致を強化するとともに、豊富な観光資源を活かすことで、年間を通じた国内外の観光客誘致促進と観光消費額の拡大を図ると挙げられている。また、生活環境の維持保全のため、自然環境を保全するため、環境保全活動に取り組むこと、豊富な温泉による熱利用や、地中熱をはじめとした再生可能エネルギーの利用促進など、地域資源を活用したエネルギーの自給体制の構築を目指すことが掲げられている。
- また、住民や観光客などが交流し楽しむことができるよう、上諏訪駅周辺から旧東洋バルヴ諏訪工場跡地、隣接する諏訪赤十字病院までを含めた区域について、地域資源を有効活用したまちづくりビジョンを検討することが挙げられている。
- さらにクリエイターなどのクリエイティブ人材の誘致促進について挙げられている。
- 長野県においては、気候非常事態宣言を令和元年12月に宣言した。
- 長野県はSDGs（持続可能な開発目標）達成に向けて優れた取組を提案する「SDGs未来都市」（平成30年6月）に全国で初めて選定され、地域の自発的な自然エネルギーの普及促進を掲げている。

≪事業対象地の周辺状況≫

- 産業別就業者については、昭和60年との対比で見ると、平成27年は第1次産業が△52.0%と半減、第2次産業が△32.8%の一方、第3次産業は+10.4%となっている。
- 観光客数については、7月と8月の2か月間で年間の40.0%を占めており、夏の観光入込客数（花火大会等）が高い値になっており、夏以外の観光客数は低い値となっている。

1.2. これまでの委員会での協議経緯

これまでに実施した諏訪湖イベントひろば専門委員会（以下、「専門委員会」という。）の協議結果を整理した。

■第1回専門委員会において委員から出された主な意見

- ・ 2年間、夢物語のような幅広い議論を行うのではなく、**事業の実現化に向け現実的な議論に落とし込んでいく必要がある**と考える。
- ・ 諏訪湖イベントひろばの活用にあたっては、人と金が集めれば良いというものではなく、**地域として必要な機能の検討が必要**であると考える。

■第2回専門委員会委員から出された主な意見

- ・ 重要なのは防災機能だと考える。**災害拠点**として、**仮設住宅を建てる場所が必要**である。諏訪市には、災害時に仮設住宅を建てるスペースがない。ひろばにおいては、**建物で埋めるのではなく、仮設住宅用のスペースを確保していくべき**であると考える。
- ・ 製造業だけではなく、多くの機能が**必要**だと考えており、隣接する諏訪赤十字病院と連携するなど、**健康やスポーツに関する製品及びサービスを展示**できたら特色がでると考える。
- ・ 「諏訪に来ないとできないもの」に偏った機能のほうが良いと思う。建屋を残す残さないの話ではないと考えている。
- ・ 子育て世代の立場からすると、駅前交流テラス「すわっチャオ」ができたことで、**屋内で子育て世代が集まれる場所ができ、子育て環境が良くなった**と感じる。子どもが集まれる場所、情報交換の場所、イベントスペースとして活用している。
- ・ 本事業では、屋内の「すわっチャオ」とは対照的に、**屋外で集まれる場所を整備**することが良いと思う。岡谷市や茅野市に既にあるような屋外スペースは異なる、**子どもたちがスポーツ大会、合宿などを行える屋外スペース**があると良い。
- ・ 子育て世代が日中に働けるコワーキングスペースがあると良い。諏訪湖を眺めながら仕事ができたら良いと思う。
- ・ 子供が遊べるスペースが欲しい。
- ・ **ものづくり**にこだわっていただきたい。
- ・ リニア中央新幹線の開通や諏訪湖スマート IC の開通を踏まえると、ひろばに交通のハブ機能を整備してはどうか。
- ・ 諏訪湖へのロケーションが良いため、障がい者が車いすでも出かけられる場所があると良い。
- ・ 守るものは守るが、時代にあった**ものづくりの在り方**が必要である。**健康、スポーツ、ヘルスケア**をかけわせた開発が必要であると感じる。
- ・ シリコンバレーは、住みやすい環境が整っているため、人が集まる。**医療や子育て環境等とセットで住みやすいまちづくり**を地域全体で考えなければいけない。
- ・ インバウンドを呼び込む検討をしていく上で、八ヶ岳など、諏訪地域全体を意識し、**観光機能**も新しい時代にあった**検討**が必要である。それを支援するような機能がひろばにあったら良いと考える。
- ・ 周辺の間欠泉センター等と連携して、諏訪湖全体で楽しめる場を作りたい。

1.3. ひろばに求める機能の出し方について

上記を踏まえ、事業の実現化に向け、地域として目指す姿を整理し、ひろばに必要な機能の検討を行う。

第2回専門委員会において、挙げられた「ものづくり」、「観光」、「コミュニティ（防災）」
※、「医療・健康」について、SWOT分析を行い、SWOT分析で明らかになった諏訪市が抱える課題から、諏訪市が目指す姿を整理する。

※「コミュニティ（防災）」については、通常時は子どもたちが屋外で集まれる場所（コミュニティ）、災害時は災害拠点として活用することを想定し、分析を行う。



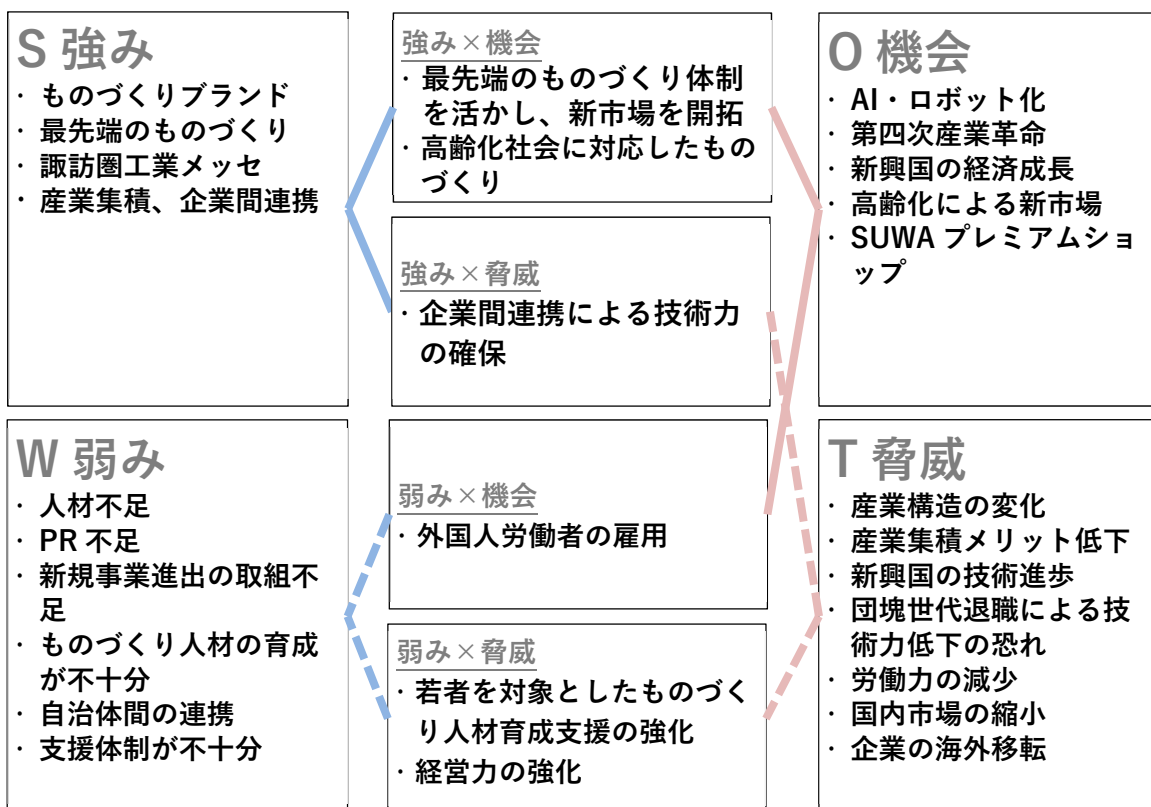
図 1.1 ひろばに求める機能の出し方

1.4. 諏訪市の SWOT 分析

■ものづくり

現状

- ものづくりは、諏訪市の基幹産業である。
- 地方では国内最大級の工業専門展示「諏訪圏工業メッセ」を開催している。
- 大手メーカーの生産拠点の海外移転が進み、諏訪市の垂直的下請け分業構造が崩れ、産業集積メリットが低下している。さらに、新興国の技術力の進歩や世界情勢の変化等により、ものづくり産業を取り巻く環境は一層厳しさを増している。
- 団塊世代の退職により技術力の低下、人材不足の恐れがある。



課題

- ✓ これまで集積した技術を活用し、高齢化社会に則した医療・健康分野や、防災の分野などで、業種や職種を超えた産業間連携を推進し、時代に合わせたものづくりを構築する必要がある。
- ✓ 技術の継承や次世代を支える人材育成の支援を充実・強化する必要がある。

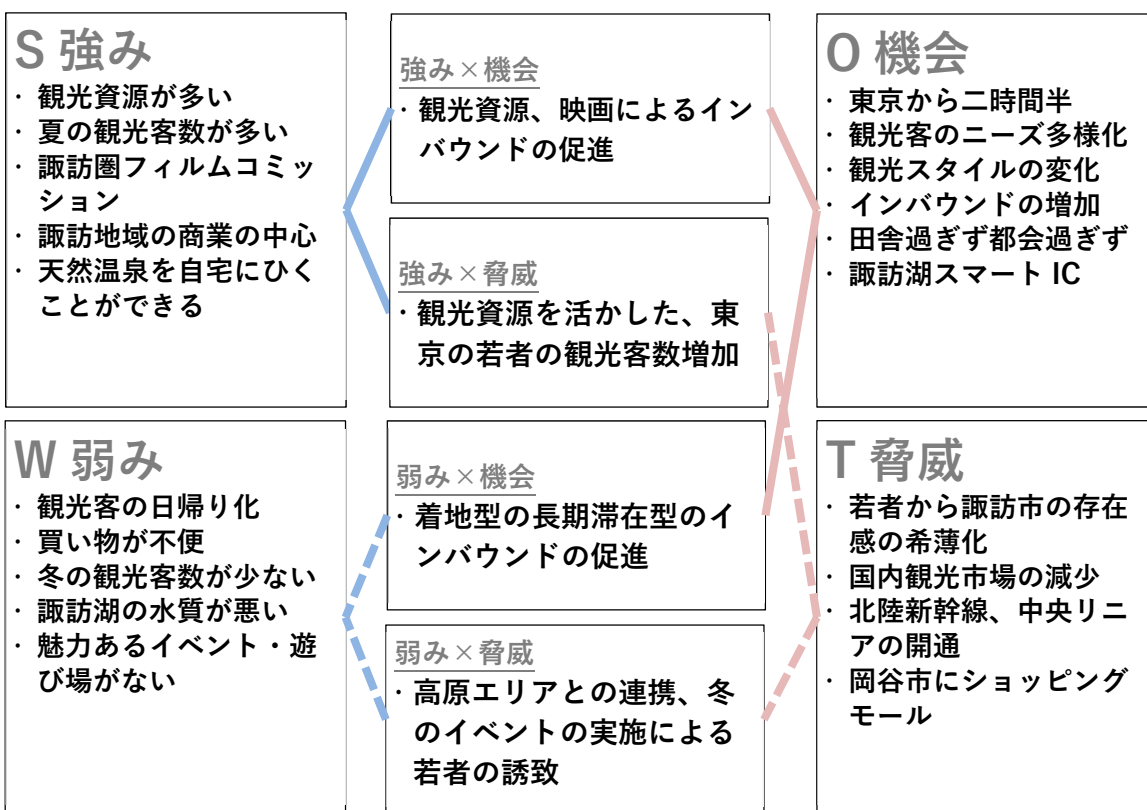
【目指す姿】

ものづくりに関する様々な分野のヒト・モノが関係を強化し投資を呼び込み、新たな価値が創造されている

■観光

現状

- 豊かな自然環境と観光資源が豊富で、毎年多くの観光客が訪れている。諏訪湖花火大会等、夏に観光客数が多い。
- 若年層を中心に「諏訪市の存在感」が希薄化している。
- 観光スタイルが団体から個人旅行へ変化している。



課題

- ✓ 諏訪市ならではの特色あるおもてなしを推進する必要がある。
- ✓ 高原エリアと連携し、冬の諏訪市の観光を促進する必要がある。
- ✓ 諏訪市の観光の魅力を「伝える力」を強化する必要がある。



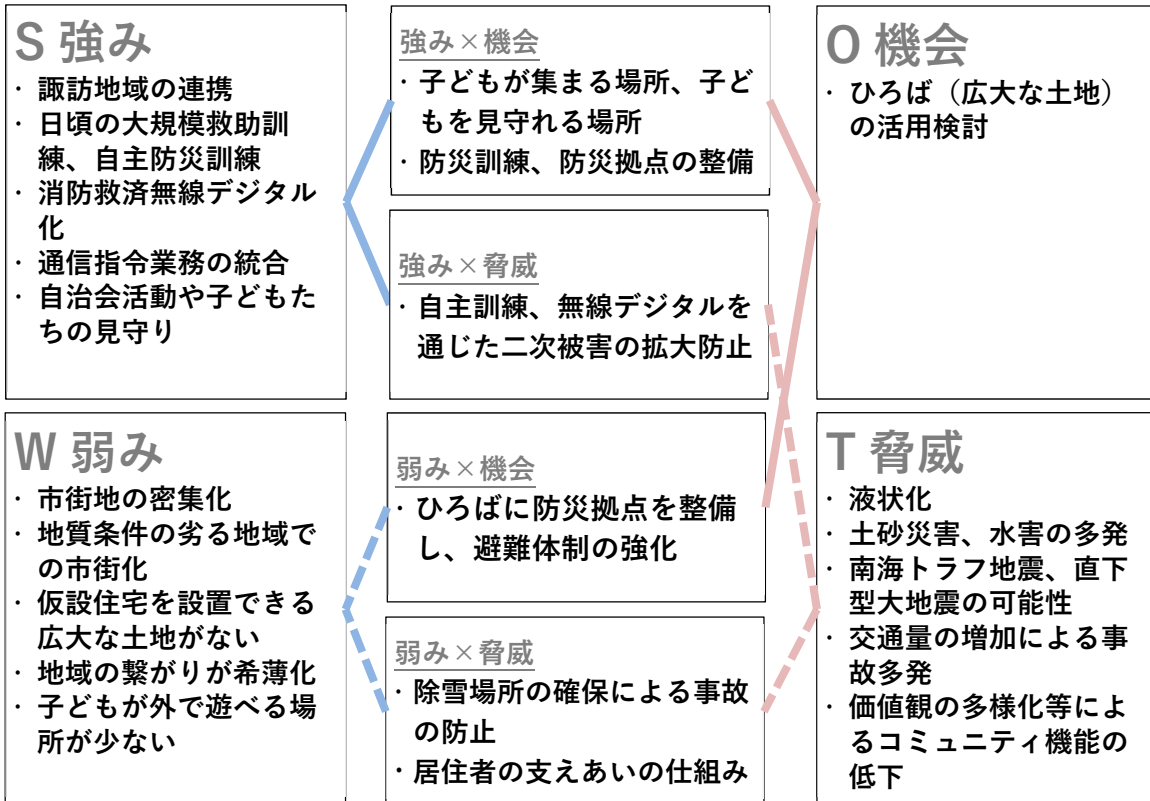
【目指す姿】

豊富な観光資源と「諏訪市ならではの」コンテンツを活かし、観光客に新たな発見・感動・癒しを提供し、年間を通じ人が集まる

■コミュニティ（防災）

現状

- 地域社会を取り巻く環境の変化や価値観の多様化により、地域の繋がりが希薄化している。
- 山々に囲まれ、急勾配の河川を有しており、水害に弱い地域である。また、地質条件の悪い地域で市街化が進んでいる。
- 南海トラフの「防災対策推進地域」に指定されている。



課題

- ✓ 子どもが集まれる場所、子どもを見守れる場所を提供する必要がある。
- ✓ 災害時等に地域と助け合える体制を整える必要がある。
- ✓ 防災拠点のスペースを確保する必要がある。



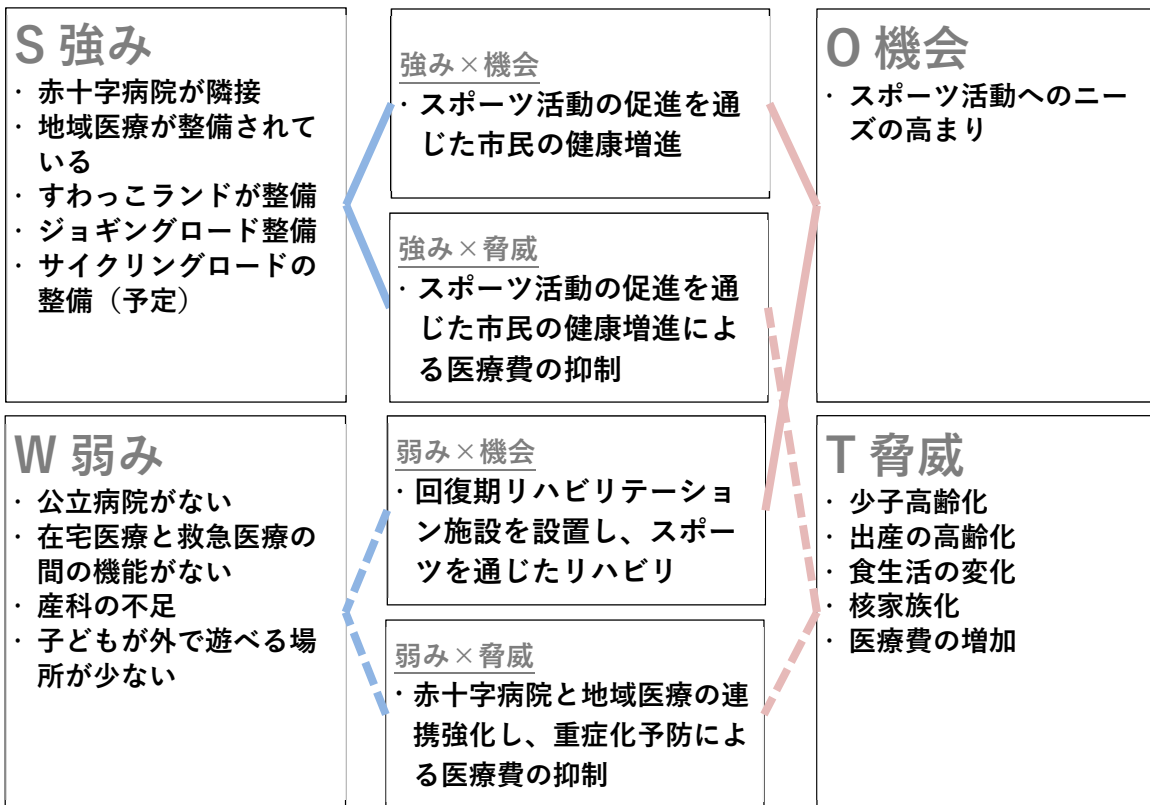
【目指す姿】

通常時は、市民の憩いやコミュニティの形成が図られ、
災害時は、市民の生命と財産が守られる

■医療・健康

現状

- 公立病院がなく、赤十字病院が市民病院的な役割を担っている。
- 急性期医療と長期療養の間の役割を果たす病院が不足している。
- 諏訪湖畔のジョギングロードやすわっこランドが整備され、運動による健康づくりを行う環境が整っている。



課題

- ✓ 治療だけでなく、寄り添い支える医療が必要である。
- ✓ 一人ひとりの日頃からの健康づくりが重要である。



【目指す姿】

地域の医療体制が充実し、住民がライフステージに応じた健康づくり活動を行え、諏訪市に住み続けたいと思える

持続可能な開発の実現化にあたってのポイント

- ・民間活力の導入
- ・地域資源を活用したエネルギー

1.5. ひろばに必要な機能について

諏訪市の目指す姿の実現にあたって、ひろばに求められる機能（案）を整理した。また、事例（案）を示す。

